



にいじまむら

議会 だより

<特集> 高知県視察レポート

令和元年第2回定例会(6月)



子供たち主体の 若潮会の会議風景(若郷)

表紙は語る

今回の写真は、若郷の子供会「若潮会」の夏休みラジオ体操当番の会議の様子です。若潮会は、私の記憶では60年ほど前(私の小学生の頃)には生徒会の名称として使われていたような気がします。放課後になるとお兄さんお姉さんが小さい子供たちと一緒に遊んでくれた事を憶えています。いい意味で縦のつながりがあったように思います。

今の若潮会の年間行事は5月5日の天王様、8月盆祭の協力、12月師走祭の協力と多岐に渡っていて、活動は今も活発に続いています。子供たちの造りあげた文化を、未来を担う子供たちに継承できる様、地域の皆で見守っていききたいものです。

文・写真:前田 寿夫

- 2 一般質問
- 7 議員視察レポート
- 10 委員会より
- 11 議長の^{アイ}目らんど
- 12 スピーカーズコーナー・編集後記

一般質問

令和元年6月開催の定例会にて、5名の議員が村政について質問を行いました。その内容を一部抜粋してご紹介します。



山本均
議員



新島村の住民の生活を支える基軸となる産業の現状と未来はどのようなものか

問 住民の生活の糧を得る手段としての仕事、産業はどうなっているのか？

答

基幹産業の観光業や水産業の低迷が長引き、就業人口が減少し、村全体の人口減少となっている。各産業分野で後継者不足となり、生産性の低下が顕著である。本年度は村の「総合計画」の見直しを予定しているの
で、地域資源や特徴を活かした計画の策定をしていき

たい。

農業は遊休農地の解消を目指して徐々に貸し方、借り方があり、農地の流動化が少しずつ進み規模拡大の農地も出てきている。漁業は漁獲量が年々減少し、水揚げ高は10年前の半分まで落ち込んでいる。村では老朽化施設の改修や、人材育成事業として漁業体験教室・新規事業者支援事業を実施している。観光業は素泊まり宿の増加に伴い、飲食店不足が大きな問題になっている。客の収容力を含めて関係団体と協議し復興策を講じていく。



人手不足の現状下における特養ホームのあり方

問 特養ホームはこれからどのような運営を目指すのか？

答

特養ホームの就業状況（4月1日現在）は、1年前と比べて常勤1名増、非常勤2名増の総人員74名で、常勤換算では2名増の60名となっている。しかし夜勤等を担う介護職の確保が難しく、現場運営に苦慮している。今後の運営の重要課題として、はまゆう会では「人材確保」「運営内容の改善」を挙げている。国内での人材難をふまえ、海外からの受け入れ事業による「介護職技能実習生」が9月に来島、就業予定で準備している。運営内容の改善は現行制度のもとではなかなか難しい。デイサービスは、再開できるように今後とも努めていく。



▲特養ホーム中庭の苗植え作業を見守る入居者



次の村長選の
立候補の意思表示は？

問 村長の任期はあますところ4ヶ月、その後どうするのか率直な思いを簡明瞭に示してほしい。

答 村民の皆さんが真に行政に望むものは何か？このことを自身に問いかけ、村民の皆さんと同じ目線で事業を進めてきた。子育て支援では、高校生医療費の無償化、放課後こども教室、多世代交流、寺子屋、出産に係る交通費の助成拡充などを行った。福祉の充実では、式根島地区の福祉拠点施設の設置に取りかかり、島外医療機関を利用する際の交通費の助成を行った。防災・消防では若郷地区に避難施設の設置に取り組んでいるところであり、津波

避難タワーや避難道などの整備を進めている。基盤整備では超高速ブロードバンドの整備を完了した。産業振興と定住化対策は道半ば

であり、次期は最重要課題として取り組んでいきたい。このようなことから村民の皆さんの判断を仰ぎたい。



「消費税増税を
中止せよ」との態度を明確に

問 「社会保障のため」とか「景気が回復した」との根拠は崩れた。村民の生活、村の財政に深刻な影響を与える増税に対し、自治体の長として「消費税増税は中止せよ」との態度を明確にすべき。

綾とおる
議員

答 消費税増税が国民や景気動向に与える影響などを考慮し、当初予定から延伸し今日に至っている。税の議論は大変難しい。一般消費者としては、増税について可能な限り避けたいところと思われる。一自治体の首長としては、消費税率引き上げに反対・賛成は申し上げない。



防災対策の
具体的進展は

問 新島村地域防災計画では、「南海トラフ巨大地震」を一番の焦点に防災対策が記されている。役場庁舎について「本部機能を満たす施設が浸水域、避難対象地域にある」とし、「移転を含め本部庁舎の建設を検討」としている。災害時に医療拠点となる診療所は老朽化も進んでいる。具体的な進展はどのようになっているか。

答 津波避難タワー、避難路の整備、若郷地区に避難施設を建設する予定など、津波避難困難者解消に向け、整備を実施する。役場庁舎移転は、財源確保、他事業との調整が必要で計画通りに進捗していない。役場庁



子育て世代を
支援する具体的な
施策を

問 村として、最大限の子育て支援、生み育てられる環境整備を進めることを求める。義務教育課程における学校給食費の無償化（二部無償化を含め）に取り組んでいる自治体が増えている。近隣島しょ自治体でも、御蔵島村、利島村、三宅村が実施している。子供の食育の推進、教育環境の整備、子育て世代への支援として、給食費の無償化の早期実施を求める。

舎が被災した場合、対策本部は防衛装備庁新島支所に設置し、機能確保する。△再答弁▽庁舎より診療所の計画を優先的に検討していく。

答

(近隣島しょ自治体では)人口の流失を防ぎ、転入者を増やす施策の一つとして実施されている。「学校給食法」では施設費や人件費、運営費は自治体負担、食料費(給食費)として1300万円)は保護者負担。「子育て支援」の観点から、給食費の無償化は「国が行うべき」と考える。村として、現時点では無償化は考えていない。今後、就学支援や子育て支援の施策の検討課題の一つとして協議できればと考える。

答

昨年から新制度がスタート。村では、単年度ごとに保険税を見直し、一般会計からの繰り出し削減を実施している。現段階で均等割の減免は考えていない。(18歳未満)59世帯、93人を対象とすると186万円。新たな制度導入は現段階では考えられない。しかし、全額減免ではないが、都内市町村でも実施されているため、子育て支援の観点から、今後の推移を見ながら検討を行う。まずは赤字解消を進める。

答

進捗状況などを検証しつつ「より良い制度となるよう検討を重ねる」としていたが、その後の検討内容が、**答**(1月~5月)計333件、218万円、ほぼ予算通りで推移。受付業務で課題を見つけ検討している。今年度については、現段階で変更は考えていない。どこまで上乗せできるか、細かいデータを取りながら検討する。

答

通称「いほ外来」(液体窒素療法を用いた診療)の受診者は、おおむね7名程度。式根島では対象患者が1名。液体窒素の特性から、運搬、保管が問題。運搬方法などを含め継続検討していく。

答

現状の更衣室は、小さく、衣類かごを数個置いてあるだけの簡易なものとして認識している。何度も現地を確認し協議した経緯がある。設置場所、排水、高波における施設保護などがネックとなる。整備したいが実現できていない。必要な備品は対応する。

問

国保は他の健保制度より保険税が高い。0歳の赤ちゃんにも掛けられる「均等割」は子育て支援に逆行する。国保における18歳未満者に対する「均等割」の全額減免に取り組むことを求める。

問

「島外医療機関受診にかかわる交通費等の助成」について、すべての住民を対象とした制度とすることなどを求めてきた。事業の

全住民を対象に助成を

問

新島では毎週金曜日に受診できる。高齢者にとって連絡船での通院・受診は大きな負担。医療格差は解消すべき。式根島でも「いほ外来」診療を早期実施すべきと考える。

式根島でも「いほ外来」の実施を

問

間もなく観光シーズンを迎える。式根島「松ヶ下雅湯」は大変賑わい「イモ洗い」状態となる。「更衣室が狭くて汚い」との声がある。更衣室の建て替え改修、バリアフリー化など、観光施策の充実を求める。

「温泉」は重要な観光資源



◀式根島雅湯の更衣室
着替であるが、狭い手狭な棚が多いが、替える際の音が。



若郷避難施設
および避難タワーの
活用について



小久保
利佳
議員

し、水・食料、毛布、簡易ト
イレを備蓄する。若郷避難
施設は、1週間程度の長期
避難を想定し、ソーラー発

電も設置する。また両施設
とも平常時は開放し、避
難タワーは展望台、避難施
設は会議・集会・児童生徒
の遊び場としても利用する
予定。防災訓練については
避難対象者が限定される施
設でもあるため、状況を把
握しながら検討したい。

◀南国市大湊小南
津波避難タワー
備品倉庫以外は施錠
されておらず、誰でも
登れるスロープもある。

問 新島村の建設計画や建
設中の避難施設や避難タワ
ーには、どのような設備の
装備を予定しているか。ま
た避難施設や避難タワーを
使用した防災訓練の計画は
あるのか。その他の活用方
法など質問する。



問 4月22日の6時40分頃
に発生した光回線損傷トラ
ブルによる通信障害は、期
間が長期に及び、自力での
対応が及ばない部分も多
く、問題が連鎖するような
構造もあり、ある意味災害
といってもいいものであ
り、この教訓を今後を活か
す必要がある。



光回線損傷
トラブルの教訓を
踏まえた通信災害
対応整備について



木村 諭史
議員

初動調査をしたか？ 実際
の経緯・対応はどうか？
得られた教訓、検討事項、
整備事項はいかに？

答 今回の光回線断裂事故
のように、ライフラインが
突如として途絶してしまう
ことは今後もありうる。こ
の事故対応等を検証し、今
後の課題を見極めていきたく
い。本議会の補正予算にも
計上してあるが、光回線が
不通になった場合にADS
L回線に切り替え、すぐに

使用できるようバックアップを整備する。今後とも東京都および通信事業者へ、ただくよう要請していく。

ループ回線の整備・通信環境の保守等に取り組んでいく。



▲新島村防災情報Twitter

東日本大震災を機に活用を始めたが、今回は事後の報告に止まる。携帯端末からでも更新できるシステムなので、担当とルールを明確にしてぜひ柔軟に活用を。

問 式根島には商港として式根島港（足付港）があるが、過去接岸時に事故もあり、接岸が困難として長期間旅客船や貨物船の就航は無い。内湾部分は漁港として活用されているが、商港としては廃港同然である。東京都は1島2港を推進してきたが、式根島港については完成港として、また、接岸する・しないは事業者



野伏港の旅客船
就航率向上について

の判断として、これ以上改善に着手する予定は無い。一方、野伏港は漁港という位置付けでありながら、実質は式根島唯一の商港として活用されている。近年、気象の変化と、他島の港湾整備が進んだこともあり、近隣他島に比べて客船の就航率低下が懸念されることろである。これを解消するためには、棧橋延伸による破防堤建設が必要と考える。同港船客待合所の早期建設と併せ、官民挙げて東京都に強く要請していくことが必要と考えるが、お考えや、いかに。



前田 泉
議員

答 野伏漁港を含め各港の旅客船就航率向上は、離島に住む者にとって最重要課題の一つであり、従来から様々な形で要望活動を続け、その成果として現在の各港が整備されてきたものと認識している。

今回の「棧橋延伸による破防堤建設の要請」については、この方法に限定せず、就航率向上にはどのような方法が効果的なのか、有識者や漁協などの意見も吸い上げつつ、「港湾空港等整備促進特別委員会」で意見を一本化し、行政、議会一体となり、国などへの働きかけを行って行きたい。

また、船客待合所について、東京都の整備計画では、令和2年度・3年度の債務負担事業として整備予定であるが、計画に遅れが生ぜぬよう引き続き要望して行く。



視察先選びのポイント

● 小久保利佳

議員視察の幹事としての初仕事は視察先を選ぶことでした。選定のポイントとして新島村のためになることと、新島村と同じくらいの自治体規模のところを考えました。時々購読している『TURNS』（人・地域・暮らしをつなぐ、をテーマにした雑誌）の中に、少子高齢化、過疎という新島村と共通の問題点を抱え、自治体規模も同じくらいの高知県梶原町の集落活動センターの記事を見つけて、住民自治の現場視察をしたいと思いました。

また高知県は太平洋に面した地域であり、防災・津波対策も先進的な地域であることから、そちらもあわせて視察先に決めました。

高知県 議員視察

5月13日から15日まで、議員9名および議会事務局1名の総勢10名で議員視察研修を行いました。

今号では参加議員によるリレー形式で視察内容を報告します。

編集：木村 諭史・小久保利佳

視察レポート



四国視察ルートマップ
土佐湾沿岸から山間部の梶原町

1 高知県南国市 避難タワー

● 綾とおる

南国市（なんこくし）の、津波避難タワーを視察しました。南国市は県都・高知市の東側隣に位置し、人口47000人余りです。南は土佐湾に接し、北部は四国山地南端に連なり、沿岸部から中央部の高知平野に至る。ほぼ平坦な地形が印象に残っています。津波対策の緊急性・重要性を痛感いたしました。

過去の教訓を生かせ！

高知県は、過去にも大きな地震、津波に見舞われ、甚大な被害を出してきました

津波を避ける！ 命を守れ！

南国市は、最大震度6強〜7、津波高15m超の想定。南国市のハザードマップでは、海岸線近くに14基の津波避難タワーがずらりと並び、その奥側（海から）には非浸水域の高台などに一時避難する避難場所、さらにその奥の安全地帯に一

た。平成24年、内閣府の「南海トラフ地震」の想定で、高知県は、震度6強〜7、黒潮町などで全国最大の34mの津波予想。その後、全県的に津波から「命を守る」ことを最優先課題に掲げ、津波避難空間の確保を進め、平成29年3月には避難路・避難場所などの約9割が完成。当村と比べ、極めて素早い取り組みだと感嘆しました。

「質実剛健」弱者にも配慮

定期間生活するための避難所が配置されています。「命を守る」から「命をつなぐ」との強い思いが具現されています。

津波避難タワーは、何の変哲もないコンクリート製の太い柱で、3階建てです。まさに「一時的に津波から避難」するためだけに作られたように見えます。1階、2階は壁もなく津波は素通りします。さらに、タワーの外周にはスロープが設置され、車いす、高齢者などへの配慮も行き届いています。当村における津波避難施設の整備において、見るべき点は多いです。

2

地域防災拠点・ 安芸市消防 防災センター

●青沼弘



▲安芸市消防防災センター 高機能消防司令システム・消防救急デジタル無線システムを有し、災害時には救助や支援派遣を円滑に行えるよう海岸部の監視カメラ・潮位計システムを設置。地域防災の拠点となる。

安芸市消防防災センター（消防本部）は、災害時の拠点として大事な施設です。高機能消防指令システム・

消防救急デジタル無線システム・災害監視カメラ・潮位計システム等の設備を兼ね備えています。センターの3階には、災害対策本部・消防団本部・避難室などがあり、災害時には、千人以上が避難できるようです。ここ安芸市も南海トラフ地震により津波が想定されることから、市役所には危

機管理課もあり、津波避難路の整備はもちろん、避難所の環境整備・避難所運営マニュアル・自主防災組織の育成をしています。防災訓練は、市で行う訓練の他に、自主防災組織による独自の訓練、学校単位での訓練を、年に数回行っているそうです。私が感じた事は、子供からお年寄りまで、一人一人が防災に対する意識を強く持っているという事です。新島村でも、南海トラフ地震の際には、推定30メートルの津波が予想されます。近年、起こりうる災害に対し、人的被害をなくすためには、島民一人一人が危機感を持って防災に取り組んでいかなければなりません。

また、村・自治会・消防団・学校等が連携して、災害に強い村づくりをする事が必須の課題だと思います。

3

充実した 桄原^{ゆすはら}町議会訪問・ 意見交換

●山本均

村議会の視察研修では必ず行つた先の議会を訪問し、意見交換をする習わしがあります。今回の四国・高知

議会からは8名の議員のうち土釜（どがま）議長、下元副議長に出席していただきました。議員の構成は当選1回の新人議員が2名、3回・4回の中堅議員が3名（議長、副議長はこの中）、それと7回・8回のベテラン議員が3名。本職は農林業という議員が5名、あとは飲食店経営や会社員となっています。林業は全国的にずっと下降線を辿って状況は大変厳しく、山間部の農業も同様のようです。議員の役割の一つに、地域住民のみなさを励まし元気づけられる存在になるということがありとするとするならば、広範囲な地域で同時進行するさまざまな問題を見るにつけ、無力感に襲われることもあると思います。地域の枠を越え意見を交換することの意義が、今後ますます重要になってくることを痛感しました。



▲住民自ら出資・運営する四万川地区集落活動センター。ガソリンスタンドに加え、店舗部分には直売コーナーもある。

4 住民自ら運営する 四万川集落 活動センター

● 青沼喜六

高知県では集落活動センターを核とした集落維持の

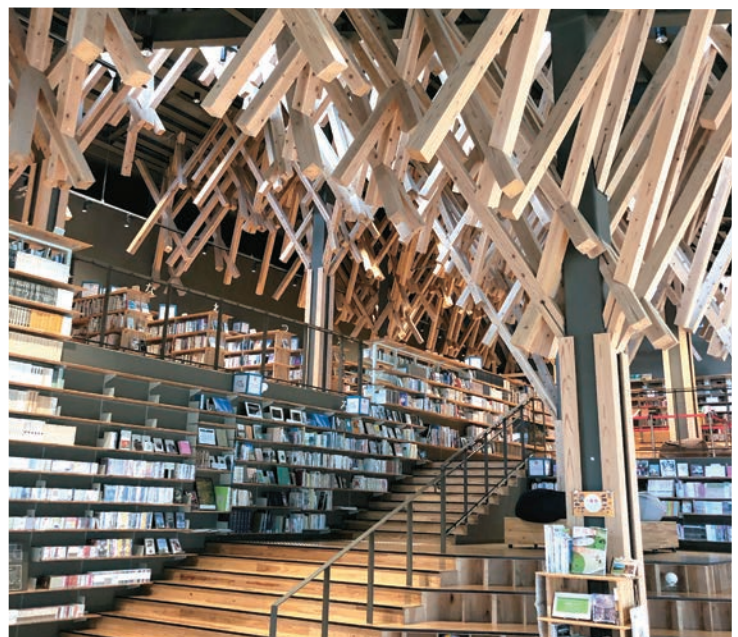
仕組みづくりを推進しています。その中で特に目を引いたのが、住民出資で株式会社を設立して、地域内唯一の給油所を復活させた、四万川区集落活動センターです。それによって住民の暮らしを支えている事に心をうたれました。

5 「雲の上の町」 栲原町の まちなみついて

● 前田泉

幹線道以外の道路は狭く、アップダウンも激しい。それもそのはず、ここは雲の上の町「ゆすはら」。人口が新島村より800人弱多い『町』です。そこここに棚田が点在している。

この町は、6つの区からなり、さらに区は6から15の集落で形成されている。隣家や他の集落と数キロは離れているのではないかと思われる一軒家や、数軒の集落も散見される。面積は新島の約9倍で、うち91%を森林が占めるが、高齢化率は約43%で、人口減少、空き家対策、人口誘致問題等は新島に似ている。



▲地元産の木材を活用した、ゆすはら雲の上の図書館は、オリンピックスタジアムとなる新国立競技場を手がけた世界的建築家・隈研吾氏の設計。カフェスペースやボルダリング(岩登り)コーナーまである。

いずれも衰退業種の林業、山間農業の町であるが、予算規模は一般会計で25億円。総額で21億円も新島村を上回っている。この背景には太陽光・地熱・風力・水力利用の環境モデル都市として、国や県の大規模補助があるものと見られる。環境モデル都市だけあって、街並みは整備されていて、新島村も、まずは住民一体となってルールを守り、観光地としてのきれいな村を目指しましょう。

住民に活力と勇気を与える 高齢者の社会参加

村議会議長の連載コラム。

今回は6月19日に行われた「シルバー人材センター一定時会員総会」での議長挨拶をご紹介します。

1年後に迫った2020東京オリンピック・パラリンピックですが、その準備は順調に進んでいるようで、新橋から豊洲方面にモノレールに乗って行くといろいろなオリンピック関連施設が目に見え込んできます。新島にも来年オリンピックの聖火が来ることになりましたが、当初、期待したオリンピック開催による経済効果は、残念ながらこの新島では感じられません。

少子高齢化が進み、高齢化率が35%を超えたこの新島、第一次産業の漁業・農業を中心に高齢化が進み、なんとなく元気がありません。オリンピックに向けて、外国人の誘致等積極的に行い、観光産業を中心に、停滞している新島の産業に活力を与えるまたとない機会かと思いましたが、残念ながら今のところ、起爆剤にはなりません。各産業の伸び悩みで村の厳しい経済情勢は、皆様方の業務に少なからず影響を与えていることは理解していますが、日本における高齢者を取り巻く環境は、厳しさを増していることも事実かと思えます。

安倍総理大臣は、金融庁がまとめた「老後の生活費が2千万円不足する」とした報告書をめぐり、自民党本部で開かれた会議で、この6年経済が10%以上成長し、運用益が44兆円もプラスになり、年金財政基盤は確かなものになっていると主張されましたが、その恩恵を我々が受けられるのは、いつになるのか具体策に期待したいところです。

また、このところ毎日のように高齢者が運転する自動車事故がテレビ等で報道され、高齢者の皆様方は肩身の狭い思いをされているのではと思いますが、シルバー人材センターは単に高齢者の方々の就労の場というだけでなく、社会参加の場としても重要な役割を担っているものと私は認識しております。

会員の皆様方が島内の随所で花の管理をして下さったり、ボランティアで環境整備をして地域社会に貢献をして下さったりしている姿は、世代を超え、多くの住民に活力と勇気を与えています。このようなご苦労に対し、議会も行政と一緒に、より一層努めてまいります。

〈村議会議長 前田邦弘〉

議会を見よう!

ご自宅のパソコンやスマートフォンでカンタンに議会中継を見ることができます。(最新議会のライブ中継はもちろん、過去の議会映像、議員ごとの答弁映像がご覧いただけます)



スマートフォンの場合

QRコードリーダー(カメラ機能)で、左の画像を読み込むだけ!



パソコンの場合

インターネットで「新島村議会 中継」で検索!

新島村議会 中継 🔍



編集委員が地域の皆さんにインタビュー!

スピーカーズのコーナーでは本村在住の菊地琉生君にお話を伺いました。

小久保 先日の定例会を傍聴しに来てくれましたね。議会傍聴はいかがでしたか？

菊地 政治経済の授業の一環で傍聴しに行きました。議員さんは普段何をしているのかよくわからなかったのですが、議員さんの仕事がよくわかりました。実際議員さんの質問や提言に高校生として同感することもありました。

小久保 村議会議員の仕事は今回のような定例会(年4回)のほかにも、なかなか見えないのだけれどたくさんあります。『議会だより』にその一部が掲載されているのだけど、『議会だより』

より』を読んだことはあるかな？

菊地 正直に言うと、なかったですね…。

小久保 『議会だより』には議員が一般質問した内容だけでなく、村が抱える問題や考えなければいけない問題、菊地君たち高校生にとっても身近なことも載っていますよ。

菊地 今回の取材でちょっと読んでみようかと思いました。授業で使うのもいいかもしれません。

小久保 私たちが住む島のことを考えるきっかけになってくれたらうれしいです。今日はありがとうございました。



菊地琉生君プロフィール
2001年生まれの新島高校3年生。
新島高校太鼓部部長、
ボランティア部部長を務めるほか、
2丁目馬鹿囃子など、
地域活動にも積極的に
参加している。

議会に行こう!

村議会はどこへでも傍聴することができます。
議会が開かれる議場は、
新島村役場庁舎の中にあります。

◆議会を傍聴するには／傍聴を希望される方は、議会開会の10分前(通常10時開会ですので9時50分)までに、議会事務局で受付をしてください。議会事務局は役場入口から右手にある階段で2階に上がり、振り返ったところにあります。受付が終わったら、2階右手奥の議場へお進みください。



編集後記

2年前の前任期から進めていた『議会だより』の改革も、今号で、大詰めを迎えています。前回のフルカラー化に続き、今回はデザインを一新し、より見やすく改善いたしました。また、発行までの経費総額も以前より削減できています。

次号は、より早い発行を目指して努力していきたいと思っております。毎号テーマカラーを変えていく予定ですが、『表紙は語る』をはじめ、季節感・現場感のある紙面にしていきたいと思っております。ご意見や感想などありましたら、編集委員一同の励みになりますので、お寄せいただけると幸いです。

〈木村諭史〉

- 広報編集委員会メンバー
- 委員長：小久保利佳
- 副委員長：木村諭史
- 委員：前田泉
- ：前田寿夫
- ：青沼弘